

前年度の改善方策について取り組んだ改善結果について

世田谷区立八幡中学校

【学校生活について】

新型コロナウィルス感染症の5類移行に伴い、様々な教育活動が平成時代のそれに戻ってきて、多くの生徒が前向きに取り組んでいる姿勢があると捉えることができる。

学校関係者評価アンケートにおいて、ほぼすべての項目で肯定的評価が昨年度よりも向上している。「学校生活は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は91.0%、また、「学校行事は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は95.0%であり、どちらも高い数値であった。

また保護者の同様の項目である「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は81.0%、「学校行事は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は92.0%と、生徒と同様に高い数値であった。学校生活の制限が撤廃される中で、本校の教育活動に一定の理解を示してください、ご協力いただきてきたことは大変ありがたいことである。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○生徒の安心・安全を第一に考えた学校運営。

- ・生徒が充実した学校生活を送ることができるような生活指導
- ・安全指導の充実（施設危険個所の定期的な点検と早期対応、不審者対応）
- ・構成的グループエンカウンターを用いた日認知能力の向上

○教育相談の充実

- ・校内特別支援委員会において、専門家をふまえた生徒理解のための研修。
- ・S Cや外部機関との連携を視野に入れた対応の検討。
- ・WEB Q-U調査の結果分析。個々の生徒に合った指導方法・対応の確認。

生徒の状況の情報共有。個々に適した指導や働きかけの確認。

○生徒の自治活動の奨励

- ・「上級生を見習う」を基本に、生徒たちが自主的に取り組む活動の助言・支援。

○学習指導の充実

- ・研究テーマを踏まえて、年間一度以上の自己研修授業を実施。
- ・I C T機器の効果的な活用に向けた校内研修の充実
- ・個別最適な学びの充実

【学習指導について】

個に応じた学習の充実に向けて、学習の個別最適化やUDを意識した授業を進めてきた。

G I G Aスクール構想の実現に向けて、I C T機器を効果的に活用した授業展開を行うとともに、指導技術向上に向けての校内研修を実施してきた。

このような状況の中、学校関係者評価アンケートにおいて「先生は、映像やタブレットなどICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」の生徒の肯定的評価は89.0%となり、昨年度の同様の項目と比べ、さらに5%上昇している。また、学習の個別最適化に関する質問では、それぞれ83.0%、89.0%と高い評価を得ることができた。さらに協働的な学びの充実を図ったことで、「自分で考え

たり、友人と考えたりする時間を授業の中でとっている。」の生徒の肯定的表は94.0%と高い結果となり、昨年度の同様の項目と比べ、こちらも上昇している。教員の授業改善の努力が生徒に伝わっていることが分かる。一方で、保護者の同様の数値は58%であり、生徒との結果に開きがある。これは、保護者が授業を直接観る機会がないことが一因と考えられる。同質問での「分からぬ」の回答が約30%となっている。公開授業は実施されてきたが、数値の変化が昨年度と変容が見られなかつたため、令和6年度は改善に向けての方策を講じていく。

また、学び舎の教育活動を再開した。今年度は小学校体育の実施、小学生を招いての部活動体験などを行った。学校関係者評価において昨年度の同様の項目と比べ、24%上昇した。生徒の意識ではまだまだ交流できていないということも読み取れるので、今後の取組を更に充実させたものにしていく。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○校内研修

- ・教員の授業力向上、ICT機器の活用
- ・授業の母体となる学級組織の向上に関する取り組みの実施
- ・全教員によるPISA型読解力の育成に向けた研究授業の実施。

○少人数・習熟度別学習指導（数学・英語）、チームティーチング（理科・英語）による授業。

○授業時間以外の学習の機会の提供

- ・放課後補習、土曜講習、検定対策講習、教師による朝・放課後の個人学習指導

○学び舎小学校との連携

・学び舎研修会

共通テーマ「学習の個別最適化」を軸にした、研究授業及び研究協議会の実施。

- ・学習習得会議の実施。

学習習得確認調査の結果を基にした小中の枠を超えた、学習課題の検討と指導方法の共有。

【地域との連携】

地域との連携については未だ十分に行なうことができていないのが現状であるが、地域の方々の支援をいただきながら、いくつかの地域行事を実施することができた。そのため、地域との連携について（保護者）の項目では、「地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の肯定的評価は67%、「地域の活動等に協力的である。」の肯定的評価は74%となり、昨年度と比較すると、それぞれで低下しているので、地域で活動している生徒の様子を伝えたり、地域との連携をさらに深めることができる機会を増やしていく。

以下は今年度学校として取り組んできたり、支援を受けたりしたことである。

○C組家庭科授業支援

○地域と協働した避難所運営の実施

○2つの地域行事にボランティアとして生徒が参加

○検定対策講習での受付作業や検定の試験監督業務。

○部活動ステップ活性化委員会での各部活動の現状確認告及び部長との懇談会。

○STEP及び部活動における指導。